

# 法士会報

発行所

〒184-8584

東京都小金井市梶野町3-7-2

TEL・FAX (042) 387-6385

法政大学デザイン工学部

都市環境デザイン工学科同窓会

発行人 梅園輝彦

編集人 会報編集委員会

## ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 新会長からのメッセージ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆



法士会会長  
梅園輝彦

### ご挨拶

本年(2008年)4月1日より法政大学工学部土木同窓会(法士会)の会長を引き受けることとなりました梅園です。会長任期3カ年の間、副会長および理事、監事から構成される理事会(法士会執行機関)の方々と共に法士会のため、母校のため、助力できるよう頑張る所存でございます。法士会の活動には同窓生、在学生の皆様、そして在校の教職員の方々の支援と協力なくしては有意義な活動は出来ぬものと考えます。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

### 工学部改組と土木同窓会のこれから

- ・1950年(昭和25)4月  
工学部(機械・電気・建設・経営)発足
  - ・1959年(昭和34)10月 土木同窓会発足
  - ・1966年(昭和41)4月 土木工学科分離独立
  - ・1966年(昭和41)10月 工学部同窓会設立
  - ・2004年(平成16)4月  
土木工学科は都市環境デザイン工学科に科名変更
  - ・2007年(平成19)4月  
工学部よりデザイン工学部分離独立
  - ・2008年(平成20)4月  
工学部は理工学部、生命科学部に改組
- 私は、1965年3月に学部13回生として70名の仲間と共に卒業し、ジェネコンに41年間勤務し一昨年3月に退職、現在は専門学校と民間会社で土木技術を生かしたお手伝いをしています。東京オリンピックが開催された翌年に社会に巣立った1965年卒は、東小金井キャンパス卒業第1期生であり、卒業証書に記された学科名は工学部建設工学科土木専攻の名称でした。
- 土木と建築の2つの専攻に分かれていた

工学部建設工学科は、1966年4月1日に土木工学科と建築工学科に分離独立し、今日まで多くの土木技術者を社会に送り出してきました。しかし法政大学においては、時代が求める学問領域への変更や新設を行うべく工学部の大改組を進め、本年4月までにデザイン工学部・理工学部・生命科学部からなる理工系3学部を開設しました。

2007年4月に誕生したデザイン工学部は、都市環境デザイン工学科(旧土木工学科)、建築学科、システムデザイン学科の3学科から構成され、市ヶ谷キャンパスでスタートしました。2008年4月から小金井キャンパスには、理工学部(機械工学科、電気電子工学科、等)と生命科学部が開設し、既存の情報科学部を加えた3学部が立地します。なお、本年春より工学部の学生募集は全て停止されました。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科入学の学生が卒業するのは2011年3月で、小金井キャンパスの3学部では2012年となります。従って2011年の4月より、現在の工学部同窓会は「法政大学理工科系学部連合同窓会(仮称)」として改組再編することが検討されています。

こうした工学部同窓会の変革に、我々「土木同窓会」も遅れることの無いよう、また日本国内はもとより広く海外までの大地に「法政大学土木卒業生」の名を広めてきた土木同窓会の足跡に恥じぬよう、同窓会改組は熟慮し取り組む所存です。当然ですが、土木工学科の後継である都市環境デザイン工学科の「在校生との交流や卒業生への支援」を通じ、同じ技術分野を学んだ同窓生として、喜びを共有できる同窓会を目指すものです。

### 土木同窓会会則に記す目的、事業

法士会において最も重要なこととして、同窓生と環境デザイン工学科の発展に寄与すること、そのための事業として名簿の出版など5つの事業が会則に記されています。法士会の執行機関である理事会においては、常に会則を鑑み活動します。

### 【土木同窓会会則】(抜粋)

#### 第3条 目的

本会は、会員相互の親睦を図り、会員と法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科との関係を密接にし、その発展に寄与することを目的とする。

#### 第4条 事業

本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 会員名簿、会報等の出版に関する事業
2. 総会、支部会等の開催に関する事業
3. 講演会、講習会、見学会等に関する事業
4. 後輩の援助、指導に関する事業
5. その他、本会の目的達成に必要な事業

### 2008(平成20)年度土木同窓会役員

- 会長 梅園輝彦(65卒)
- 副会長  
船木健治(66卒) 栄毅熾(69卒)  
吉田保(73卒) 山口明(75卒)
- 理事  
石井謙(67卒) 岩淵善弘(70卒)  
武内辰夫(72卒) 麦谷豊(72卒)  
前田重行(78卒) 宮下清榮(78卒)  
大鹿順司(79卒) 野口博章(79卒)  
蛭川愛志(84卒) 山川宏明(84卒)  
上木泰裕(85卒) 栗木実(87卒)
- 監事 谷岡叶(87卒)  
三村卓(94卒)

なお、法士会役員については会則第11条に、上記理事会メンバーに加えて、幹事、相談役、顧問を置くとしている。また、幹事については会則第12条3項に「卒業期毎に2名以上、及び教室より若干名選出する」と記しています。これから、卒業期毎に幹事を決めて頂くための準備を行いますので、ご協力の程よろしくお願ひ致します。

#### ●歴代同窓会長

- 不嶋恵司(1985~1987) → 加藤正男(1988~1994) → 小林一久(1995~1997) → 高桑明(1998~2001) → 丸尾茂樹(2002~2004) → 渡邊隆之(2005~2007)

## 学科主任のあいさつ デザイン工学部都市環境デザイン工学科主任 満木 泰 郎



写真1 市ヶ谷田町校舎と筆者

法士会の皆様こんにちは。私は1976年から1990年まで兼任講師を、1990年から現在まで専任教員を勤めさせていただいております。この間3年間大学を離れていましたが、私が赴任したときは法政大学工学部土木工学科でしたが、2002年4月からは学科名称を工学部都市環境デザイン工学科に変えました。この都市に在籍した在校生も含めてすべての学生が都市環境デザイン工学科学生となりました。2007年4月には工学部からデザイン工学部が分離独立しました。同時に、デザイン工学部の校舎を新宿区市ヶ谷田町地区に移しました(写真1)。

現在、デザイン工学部には1、2年生が在籍し、市ヶ谷田町校舎(旧62年館)で、工学部には2、3、4年生が在籍し、小金井で教育を受けています。教員は、市ヶ谷と小金井の間を行ったりきたりしているのが現状です。当然のこととして、教室会議も夏休み前は市ヶ谷校舎で、夕方、6時30分から行っています。写真2は市ヶ谷田町校舎での教室会議の様子です。9月以降は小金井校舎で行うこととしています。

デザイン工学部の執行部は、学部長が皆様ご存知の草深先生、工学部教授会主任が

都市環境デザイン工学科の溝渕教授です。

工学部の現状を簡単にご説明します。2007年4月には先に述べましたように、都市環境デザイン工学科、建築科、システムデザイン学科がデザイン工学部として独立し、工学部での新入生募集を停止しました。2008年4月には、工学部から理工学部(機械工学科・電気電子工学科・応用情報工学科・経営システム工学科により構成)および生命科学部(生命機能学科・環境応用化学科により構成)が独立し、工学部のすべての学科で新入生募集を停止しました。当然のこととして工学部にも学生がいますので、デザイン工学部教授会・理工学部教授会・生命科学部教授会・工学部教授会が併走し、教員も各教授会に所属しています。

都市環境デザイン工学科での2008年4月現在の状況は、デザイン工学部所属が岡教授、草深教授、高橋教授、溝渕教授、宮下准教授(宮下さんは2008年度より准教授以前の呼称は助教に就任されています)および満木、工学部所属が西谷教授、山田教授、阿井教授、森教授、森田教授、前田助手、牧野助手です(多分)。森教授、森田教授はデザイン工学部の完成年度である2010年度にはデザイン工学部に移籍することが決まっています。

土木工学科から都市環境デザイン工学科への名称変更は弊害もありますが、よい点も多くありました。たとえば、新入生の偏差値は関東圏では早稲田大学に次ぐ位置にあります。この学力の向上は、卒業生の国家公務員一種合格人数にも表れ、2004年度、2005年度、2006年度は各1名、2007年度は5名など以前には考えられない素晴らしい



写真2 市ヶ谷田町校舎での教室会議の様子

成績を取っています。女子学生が20%近くになり、就職も頭がいたいところです。華やかな反面、以前は女子学生といえば優秀と考えがちでしたが、例外も多くなりつつあります。

小金井地区の再開発も進んでいます。南館・西館に引き続き現在は運動場跡にエネルギーセンターと教室および研究室を主体とした東館が建設中で2008年8月に完成予定です(写真3)。2008年9月からは教室棟・第2教室棟・体育館が解体され、2009年1月からは管理棟・実験室を主体とした北館・アカデミックモールが、2010年4月完成予定(次頁へつづく)



写真3 建設中の東館

### 都市環境デザイン工学科の教育理念と学習・教育目標

#### 【都市環境デザイン工学科の教育理念】

##### (こんな人材を育てたい)

社会基盤の整備には、地球規模の環境保全、自然環境と共生できる都市づくり、循環型社会の構築など、多面的な課題対応が求められています。したがって、私たち技術者は、社会基盤の整備が人々の生活の利便性や経済活動の活性化に果たすプラスの役割と、自然環境を乱すようなマイナスの作用を正確に把握し、工学的な判断をする必要があります。

本学科は、法政大学の校風である「自由と進歩」「進取の気象」を踏まえグローバルな観点に立った工学的教育を行うことにより、専門技術を活かし問題を解決する能力を身につけ、社会との対話と説明責任の遂行が可能な人材の育成を目指します。

#### 【都市環境デザイン工学科の学習・教育目標】

##### (こんな能力を身につけよう)

##### (A) 歴史・文化の尊重と自然との共生

地域の歴史・文化を尊重する人格を形成し、自然環境と共生する社会基盤の整備に貢献できる思考能力、分析力、応用能力

##### (B) 技術者倫理

科学技術がもたらすマイナス面を踏まえつつ自然災害等への適切な対処により、公共の安全・健康・福利に寄与する、価値観を具備した責任ある高質な技術者

##### (C) 工学基礎学力：

社会基盤の整備と環境保全に不可欠な自然科学、人文社会科学、情報科学に関する基礎を習得すると共に、演習などにより専門分野へ応用する能力

##### (D) 専門基礎学力：

材料工学・構造工学・地盤工学・水環境工学・計画学・測量学に、環境工学などの基礎知識を習得し、要素技術に裏付けられた都市・地域システムを計画、設計、施工、維持管理、評価する上で必要な専門基礎学力

##### (E) 専門知識の活用能力：

専門基礎学力をもとに、環境システム、都市プランニング、施設デザインに区分したより高度な専門知識を学び、実際問題への対応能力

##### (F) 実務応用能力：

実験・実習や卒業研究を通して、理論と実現象の相違を考察・評価する能力と手法を習得し、専門知識を実社会に適用する資質

##### (G) 総合デザイン能力

工学基礎学力・専門基礎学力・専門知識などをもとに、自然環境と人工環境の融和を目指した持続可能な地域社会の形成のために社会基盤施設を計画すると共に個々の施設をデザインする創造的な能力

##### (H) コミュニケーション能力：

自己の考えを論理的、客観的にまとめて記述し、効果的な発表や討論を行える能力と、英語を中心とした基礎的な国際コミュニケーション能力

##### (I) 継続的学習能力：

目的意識を持って自己スキルアップを継続的・積極的に進める意欲と、それを計画的に進める能力

##### (J) 業務遂行能力：

さまざまな制約条件を正確に分析、理解した上で、期日を厳守し、計画的に業務を遂行する能力

定で建設されます。2010年4月から12月まで本部棟・研究棟が解体され、跡地にコンベにより選考される中庭が建設される予定です。2010年度末には一新された小金井校地がお目見えする予定です。

JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education: 日本技術者教育認定機構) については、毎回ご説明し、毎回ご協力をお願いしているところです。2004年度に最初に受審し、このとき2004年度・2005年度卒業生について認定を受けま

した。これらの年度に卒業した学生は申請すれば技術士補の資格を得ることが出来ます。2006年度には、中間審査を受審、2006年度から2008年度までの卒業生について認定を受けました。2008年4月には工学部のみならずデザイン工学部都市環境デザイン工学科にも適用の範囲が広げられるよう、認定プログラム変更通知を提出し、両学部のカリキュラムが同等であることを通知、来る2009年度には、引き続きの卒業生のために、継続審査の受審を計画しています。

JABEEの認定を受けるためには同窓会の皆様のご協力を受けることが不可欠です。

「社会工学セミナー」は、大学と同窓会を結びつける重要なパイプと位置づけております。引き続きのご協力をお願いする次第です。前頁に都市環境デザイン工学科の教育理念および学習・教育目標を掲載しました。是非ご一読ください。

最後に、法士会および法士会会員の皆様の益々のご発展とご健勝をお祈りいたします。

## 環境共生型持続可能なまちづくり

### 空間分析研究室 宮下 清 栄

渡部先生の着任で誕生した都市計画研究室も高橋先生により更に都市プランニング系の中心研究室となっていますが、2007年度より都市計画研究室から分離独立して空間分析研究室を立ち上げました。あえて都市 (urban) でなく近年欧米で都市や地域を包括して三次元的な計画の必要性から空間 (Spatial) が一般的に用いられていることに習い「空間分析研究室」と命名しました。

主な研究課題としては、①環境情報データベースの構築、②戦略的環境アセスメント (SEA) 導入検討、③環境価値の計測、④緑地分布計測による環境軸の構築、⑤環境的に持続可能な交通、⑥アメニティを考慮した空間評価手法の検討、⑦防犯環境設計⑧市民参画を促すための合意形成手法の検討などを中心に研究を進めております。

ご存じのように、人口減少社会を迎えコンパクトなまちづくりが叫ばれておりますが、一方で国土保全の観点から中山間地の重要性も指摘されております。欧米では80年代からこれらの問題に対応している先進都市が多くあり、フライブルク (ドイツ)、ストラズブル (フランス)、ポートランド (アメリカ) などを現地調査して驚きと今後の方向性を得ることができたことが、現在の研究に繋がっております。環境首都としてのフライブルクでは資源やエネルギーに関しての環境共生はもとより中心市街地再生を土地利用と交通政策が一体的に行われ総合交通計画の重要性を改めて理解しました。ストラズブルも基本的な政策は同じですが、更に都市交通レベルから都市レベルでトラムを活用しアーバンデザイ



ゼミ風景

ンにまで発展させいることは政策とともにデザインセンスまで重要視する必要性を強く感じました。いづれにしても、国民の誰もが容易に、低コストで快適に移動できる権利として「交通権」が保障されていることが背景にあり日本との大きな違いであります。また、公共空間整備政策として道路空間の再配分から都市空間の再配分にまで進んでおり今後の成熟型都市の公共空間の整備政策の在り方を示唆されました。一方、自動車社会であるアメリカでも州レベルで総合計画 (Comprehensive Plan) を策定し都市成長境界線 (Urban Growth Boundaries) の設定を義務化しているオレゴン州のポートランドは「人々が集い楽しめる街」をコンセプトに全米で唯一の地域政府メトロにより土地利用計画と交通計画は一体なものとして成長管理と交通計画を広域連携の主目的として実施されています。中心市街地の公共交通無料地区では旅行者も全ての公共交通が無料で利用できることに改めて肌で感じる事ができ、公共交通の運営のあり方を日本でも改めて議論する必要性を感じられずにはられません。住民の「生活の質」を更に向上させることが目的であり、そのためのキーワードが「ニューアーバニズム」や「スマートグロース」であり、研究室でも「賢い成長: Smart Growth」を目標に掲げています。メトロの特筆すべき点として住民参画システムの充実と情報データベースの一元管理の基で市民との情報共有システムの確立があげられます。GISにより全ての都市計画関連データがデータベース化され空間分析や計画立案の支援システムとなっています。これらを基に「生活の質」の向上を目指すためのモデルを構築し各種シミュレーションを実施し代替案の比較検討をすることを使命として掲げている点です。このような先進都市に学ぶと共に、我が国でも実施するために地理情報システム (GIS) を基本ツールとして都市や環境などあらゆるデータのデータベースの構築とともにシミュレーションの実現可能性を探っています。また、生物多様性やヒートアイランドの解決のための基礎的要素を「緑地」と考え、緑地を質と量の両面から把握するためにリモートセンシングの研究もおこない始めています。また、フランスのコンサルテーションをは



飲み会では皆元気!

じめ住民参画の徹底と住民に分かりやすい情報の提示は今後のまちづくりには不可欠でありそのためにニューアーバニズムを実現するために考え出された「シャロットモデル」などを住民合意形成に活用する手始めとして、都市再生に3次元バーチャルリアリティ (VR) の活用を研究し始めております。学科の市ヶ谷展開に合わせエコと歴史の観点から外濠周辺の蛸舞う都市再生VR (基本コンセプトは校歌に歌われている「蛸集めむ門の外濠」) を作成しました。このVR作品がフォーラムエイト主催の「第6回3D・VRシュミレーションコンテスト by UC-win/ROAD」で審査員特別賞 芸術賞を受賞しました。これらを励みに学生と協力して研究を行っております。

新しい都市づくりや都市再生では環境や財政面の制約のみならず、高いアメニティや斬新なコンセプトが求められています。「都市空間の再配分」と「環境共生」を基本に、住民参加やコンセンサスを得ていくうえで、意義やイメージが伝わる分かりやすくビジュアル的なデータ化と、限りある空間を有用に活用すべく“鳥の眼”と“人の眼”を駆使してまちづくりに貢献したいと考えています。さらに、公共事業評価のための費用便益分析の知識を身につけさせたいと基礎的な検討を行える程度取り組みをしております。

研究室の標語として「おれより遅く来てはいけない、おれより早く帰ってはいけない」と「Try and Error」を掲げておりますが、学生たちは……

小職の至らない点はOBの皆様のお力をお借りしたいと存じます。今後ともOB諸兄の御支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 第12回 社会工学セミナー 開催報告

皆様のお陰で、本年6月で第12回目の社会工学セミナーを迎えることができました。今回は、授業の一環として、在校性、大学院生および若手OBも参加し、非常に有意義な会となりました。冒頭に土木同窓会の意義、役割を理解してもらうために、梅園同窓会長より挨拶があり、在校性も興味深く聞いていたのが印象的でした。

テーマにつきましては、牧野先生の御紹介で、都市環境デザイン学科教室および海外から法政大学で研究されている方々から、講演して頂くことになりました。講演内容は、(1)「水辺と都市」、(2)「ヴェトナムの地盤沈下と水問題」、(3)「水辺と舟運」いずれも、社会環境管理の側面から有意義なセミナーでした。詳細は右記のとおりです。

日時：平成20年6月10日 17:00～20:00  
場所：法政大学デザイン工学部(旧62年館)

(1)「Water City of TOKYO 水の都市・東京」  
森田 喬 教授

(2)「THE WATERLOG AND GROUND SUBSIDENCE IN HO CHI MINH CITY, PROBLEMS & SOLUTIONS」  
Dr. Le Van Trung (リー・バン・チュング)  
Associate Prof.  
Head of Department, Geomatics Engineering, Faculty of Civil Engineering, Ho Chi Minh City University of Technology  
専門：GIS地理情報、法政大学交換研究員

(3)「江戸の水辺と社会」  
Mr. Roderick Wilson (ロドリック・ウィルソン)  
Ph.D. Candidate, History Department, Stanford University, USA

スタンフォード大学大学院歴史学専攻博士候補者・法政大学大学院エコ地域デザイン研究所兼任研究員  
専門：日本の近世近代の環境史・都市史以上

セミナー終了後、懇親会では大学院生、若手OBとベテランOBとの間で賑やかな場となりました。次回セミナー開催にあたり、若手OBの同級生同士で連絡を取り合い、セミナーをより有意義な場とすることで、お開きとなりました。

次回、第13回社会工学セミナーの開催をお知らせします。

日時：平成20年10月15日 17:00～20:00  
場所：法政大学デザイン工学部(旧62年館)  
テーマ：検討中

(OB、在校生ともにヒアリングを行っております。)

(1984年卒 蛭川愛志)

## 土木同窓会第1回理事会

平成20年5月22日(木)市ヶ谷校舎のボアノード・タワー19階D会議室で平成20年度の第1回理事会が開催されました。

梅園同窓会長から、3年任期の初年度にあたり理事の選任・副会長の選任についての説明がありました。副会長はコンサル関係分野・ゼネコン分野・官庁分野から選任し、理事は年齢的に広範囲にわたり人選したとのことでした。土木同窓会理事会メンバーは名簿の通りです。

引き続き、デザイン工学科主任の満木教授よりデザイン工学部の現状と小金井校舎の建替え進捗状況説明がありました。また卒業生が技術士第一次試験合格者と同等と認められるJABEE制度について、同窓会メンバーが社会工学セミナーにたくさん参加するよう協力を求められました。

平成20年度の行事予定については、社会工学セミナーの開催・同窓会会報の発行・東北地区同窓会開催等についてそれぞれ担当理事から説明がありました。

事務局から、平成19年度の収支決算報告と平成20年度予算案について説明があり、

承認されました。

工学部同窓会の活動について、梅園会長から工学部同窓会各科同窓会長会議の報告がなされ、前田理事からは法士会推薦の工学部同窓会役員紹介と工学部同窓会の将来構想について「法政大学工学部同窓会」のホームページから抜粋した資料にて説明がありました。

理事会は18時に開催され19時50分に閉会しましたが、理事任期の初年度にあたり議論が尽きることが無く、有志14人の理事は場所を居酒屋に移し盛況のうちに第1回理事会が終了しました。(1969年卒 栄 毅蔵)

## 法士会東北地区同窓会「土木同窓会と恩師の会」のご案内

平成20年度の土木学会全国大会は9月10日(水)～12日(金)の3日間に東北大学川内北キャンパス(〒980-8576 仙台市青葉区川内41)で開催されます。

今年は仙台で、土木同窓会として「土木同窓会と恩師の会」を下記のように開催いたします。東北地区の同窓生の皆様や学会に参加予定のOBの皆様も是非ご参加ください。参加をご希望の方は平成20年8月31日(日)までに東北地区幹事担当者にメールまたはFAXにてご返事ください。よろしくお願ひ致します。

●日時：平成20年9月11日(木)  
18:00～20:30

●場所：ホテル仙台プラザ  
〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目20-1  
TEL：022-262-7111  
FAX：022-262-8169  
仙台駅から公共交通機関をご利用の場合  
・地下鉄 勾当台公園駅から徒歩3分  
・バス停 商工会議所前から徒歩3分  
・バス停 錦町公園前・ホテル仙台プラザ前下車

●会費：10,000円

●現地世話人の連絡先

岩渕善弘 (S45)  
〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25  
(株)復建技術コンサルタント  
TEL：022-217-2024  
FAX：022-217-2039  
☒：iwabuti@sendai.fgc.co.jp

大森精二 (S46)  
〒983-0021 仙台市太白区緑ヶ丘4-28-3  
(有)ダイイチテクノ  
TEL：022-248-7678  
FAX：022-248-4339  
☒：t-daiichi@par.odn.ne.jp

## 編集後記

卒業生のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。今年の土木学会全国大会に久しぶりに参加する予定にしています。私にとって仙台は初めての地ですし、OBの方々との交流も楽しみです。紙面のほうも充実させてゆきたいと思いますので、お気づきの点がありましたらご連絡ください。

(1994年卒 三村 卓)

鶴野憲一 (S54)

〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17  
(株)福山コンサルタント  
TEL：022-262-0118  
FAX：022-262-0379  
☒：hibarino@fukuyamaconsul.co.jp

庄司明浩 (H9)

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25  
(株)復建技術コンサルタント  
TEL：022-217-2032  
FAX：022-217-2037  
☒：shoji@sendai.fgc.co.jp